



石井 正三氏

サル痘の流行に対し七月二十三日、世界保健機構(WHO)から緊急事態宣言が出された。アフリカのウイルス感染症が、欧米で始まり広がりに出している。七月二十五日に日本でも第一例の報告が出された。

この背景を少し深掘りしておこう。WHOによる天然痘根絶計画によって世界規模でワクチン接種が行われ、一九八〇年五月、天然痘世界根絶宣言が出された。これはウイルスとの闘いで人類が成し遂げた歴史的勝利だ。

## 闘いは新しい局面に

### 栄光と崩壊のドラマを活写

生命を脅かし、治っても全身にアバタを遺す古代から恐れられた天然痘。英国のエドワード・ジェンナーが牛の乳搾りの人たちの牛痘に感染し、治ると天然痘にからならないという発見に基づいて、牛痘の株を腕に植え付け、天然痘の免疫をつける手法を完成させた。英国医師会館の玄関を入ると、功績を讃えられたジェンナー像が出迎えてくれる。

日本では江戸時代末期にお玉ヶ池療養所で種痘が始まられ、手塚治虫のご先祖も加わって彼の漫画作品「陽だまりの樹」になっている。日本医師会会館がある東京・駒込から近く、野口英世ゆかりの日本医科大学も近い本郷界隈には、医学系出版社や手術道具の店舗などが並んでいた。

ヒトの健康や生命はいつの

時代でも最優先されるべきだ。コロナ禍にサル痘、インフルエンザ流行の心配も届き、一旦終わりがかけた感染症との闘いは新しい局面に差し掛かっている。

### 混乱きたす恐れも

牛痘ワクチンはヒトの天然痘に効果があり、サル痘にも有効と言われている。四十二年前の根絶宣言だからそれ以前、およそ五十歳以上の日本人なら子どもの頃、腕に田植えのような模様の種痘をされた記憶があるだろう。その免疫は多くの方々に未だ有効だ。

現在までの報告では致死率は低い、若い世代や免疫力が低下した方は脆弱な状態に置かれる。大きな流行になれば、コロナ禍同様に社会的な混乱をきたす恐れがある。

WHOの天然痘根絶宣言の後、ヒト天然痘病原性ウイルスは各国の限られた研究機関に凍結保存。ウイルスをばら撒くバイオテロや万が一の再流行のときに国民を守るために、各国でワクチンも備蓄す

る体制となった。今後の事態の進展に応じた対応が図られるだろう。

細菌感染に対する抗生剤の発見とその商品化が次々と行われ、二十世紀前半に猖獗を極め、多くの命を奪った結核でさえ、二十世紀後半には結核病棟の縮小・閉鎖が行われた。結核で夭折した薄幸の女流作家・樋口一葉がお札の顔になり、その恐ろしさは文学の中にとどめられている。

天然痘撲滅宣言・途上国の感染症対策や医療支援などを進めたWHOが、二十一世紀に入った時点で、これからは「non-communicable disease」(感染しない病気 // 生活習慣病) 対策が中心になるだろうと高らかに宣言した。

しかし、抗生剤に対して耐性菌が勢いを盛り返し、細菌同士が耐性を交換しているという実験結果も出され、新しい抗生剤の発見や創薬が微生物との競争で間に合わなくなるといった危惧も出ている。

国際交流の発達がウイルスなど風土病の世界的流行に道を開いた。RNAウイルスの

変異型が次々と出現し対応に追われるのは、コロナ禍で皆さんが認識している通りだ。香港出身のマーガレット・チャンWHO前事務総長が反省の涙を流したという噂もある。

さて、ウクライナでは戦乱が続く。モデスト・ムソルグスキー作曲の組曲「展覧会の絵」は、ハルトマンという友人画家の遺作展に出かけた作曲家が、絵画の間をめぐり歩くテーマが流れ、日本庭園散策を思わせる秀逸なアイデアになっている。



モスクワのトレチャコフ美術館に収蔵されている、イリヤ・レーピン作のムソルグスキーの肖像画=筆者提供

ラヴェルがオーケストラ編曲したら、二人の天才の才能がスパークしたような出来栄で世の中に広まった。その後、壮麗なフルオーケストラの大伽藍として出てくるのが「キエフの大門」。

### 理解、孤立、紛争？

あれれ、そうか、ウクライナ戦争によってウクライナ語読みしたら、キエフはキウになって、ムソルグスキーはロシア民族主義時代を代表する五人組の一人と言われているのに、実はウクライナの作曲家となった。

これが、国境が行ったり来たりする地続きの大陸の事情だ。

モスクワのトレチャコフ美術館に、もう一人の友人画家イリヤ・レーピンが描いたムソルグスキーの肖像画が残っている。アルコール依存症のムソルグスキー最後の入院中に描かれた絵には、蓬髪でアール中独特の赤く膨れた鼻など、四十二歳で亡くなった作曲家の生々しい姿が写されている。

目を引くのは、原画の持つ不思議な明るい色彩感と、一点を見据えた視線の凄さだ。ロシアには独裁的皇帝とその終焉の歴史がある。ムソルグスキーが残したオペラ「ボリス・ゴドゥノフ」は栄光と崩壊のドラマを活写している。現代の政治家もしっかりと鑑賞されては如何か。

同時代サンクト・ペテルブルグに生きたロシアの作曲家チャイコフスキーの交響曲は番号付きで六曲残され、第二番は「小ロシア（＝ウクライナ）」、第三番が「ポーランド」と、サブタイトルがついている。

ここでも民族主義が表れ、互いの理解になるか、孤立・紛争のタネになるか。勿論チャイコフスキーは、それぞれの個性を味わいながら理解を深める芸術的発想に立っていたのだが…。

最後の第六番は「悲愴」。最終楽章の集結部で不思議な静けさに帰っていく曲想が繰り返され、そのすぐ九日後に作曲者が突然コレラで亡くなっているという解説で、若い時は何か重くて避けていた。歳をとると、こだわりが薄れて、美しく生きて、そして死ぬのだと自然に受け止めるようになった。

### 筆者プロフィール

石井 正三

(いしい・まさみ)

地域医療連携推進法人医療戦略研究所所長・代表理事、ハーバード公衆衛生大学院名誉武見フェロー、東日本国際大学健康社会戦略研究所所長・客員教授、医療法人社団正風会理事長



老人施設、高齢者、障害者の給食・社員食堂・学食・弁当販売・移動販売



テンミール株式会社  
アジアミール株式会社

株式会社テンミールIWAKI  
株式会社一平

パート従業員

募 集

・社員登用あり ・詳細は面談にて

テンミールグループ

本 部:TEL.0246-88-6010  
業務本部:TEL.0246-68-8254

いわき市若葉台1丁目18番地の18